

## 平成 28 年度 第 1 回長野市環境審議会 会議録

- ・ 日 時：平成 28 年 7 月 11 日（月）午後 2 時から午後 4 時まで
- ・ 場 所：長野市役所第一庁舎 7 階 第二委員会室
- ・ 出席者  
委 員：伊藤（亜）委員、大澤委員、久保田委員、小林委員、渡邊委員、青木委員、  
金井委員、高見澤委員、宮島委員、井出委員、伊藤（睦）委員、小川委員、清水委員  
事務局：井上環境部長、田口環境政策課長、宮尾課長補佐、山岸課長補佐、  
峯村地球温暖化対策室長、塚田廃棄物対策課長、瀧澤生活環境課長、馬場清掃センター所長、  
大葉衛生センター所長、鈴木係長、辻主査、酒井主査  
報 道：2 名

### 《 資料 》

- ・ 報告事項 NEMS 報告  
資料 1－1 平成 27 年度 エネルギー使用量  
資料 1－2 平成 27 年度 取組の結果  
資料 1－3 平成 28 年度 目標値の設定
- ・ 会議事項 第二次長野市環境基本計画後期計画について  
資料 2－1 全体構成について  
資料 2－2 施策の体系（案）について  
資料 2－3 指標・目標値及び施策（案）について

### 第二次長野市環境基本計画（本編・概要版）

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 委嘱書交付
- 4 委員紹介
- 5 事務局紹介
- 6 正副会長選出 委員の互選により決定  
会 長：大澤委員、副会長：高見澤委員
- 7 会長挨拶

## 8 報告事項

(1) 平成 27 年度 エネルギー使用量について

(2) 平成 27 年度 取組の結果について

(3) 平成 28 年度 目標値の設定について

資料 1 - 1 から 1 - 3 について説明（事務局）

(A 委員)

エネルギー使用量を原油換算量で計算、比較させていますが、温室効果ガスに換算した場合に対前年度比の増減の結果が変わってくる可能性も考えられますので、温室効果ガス換算量も算出されてはいかがでしょうか

(井上部長)

原油換算量が増えるということは、温室効果ガス換算量も増えるということになります。

(B 委員)

小中学校の暖房の熱源を灯油から都市ガスに切り替えたとのことですが、エネルギー使用量の対前年度比で見た場合に都市ガスの増加分と灯油の減少分で大きな開きが見られますが、なぜでしょうか。

(井上部長)

記載の増減の理由は主な理由であって、数値についてはこの理由以外の増減も全て含まれた結果になっています。

長野市役所は、水力や火力からだけではなく、バイオマス発電からの電力供給も導入を始めましたので、温室効果ガス換算量あるいは、原油換算量の削減の可能性について期待が持てると考えています。

(C 委員)

熱源を都市ガスに切り替えたり、バイオマス発電による電力供給を導入したことは、非常に良いことだと思います。

ただし、A 重油の使用量が前年度よりも増加しているのは、問題だと考えますが。

(会長)

重油は炭素量の多い燃料ですから、改善は必要だと思います。

(井上部長)

A 重油は、温泉施設でのボイラーの燃料として使用していますが、ペレットボイラーを使用することで、重油使用量の削減を図っています。

ご指摘を受けまして、改善に向けて取組んでまいります。

(D 委員)

電気使用量が増加した理由の中に南長野運動公園とありますが、南長野運動公園は年度途中からの運用開始だと思いますので、平成 28 年度の電気使用量は更に増える可能性があるかと予測されます。

また、長野市として地球温暖化を防止するために、このエネルギー使用量報告の目的は何なのかということ、忘れずにおさえていただきたい。

(井上部長)

南長野運動公園だけではなく、第一庁舎、長野市芸術館も新しくなりましたので、平成 28 年度の電気使用量は相当増加する可能性があると思っています。

次に、このエネルギー使用量の報告につきまして、問題となる部分の分析を十分に行うとともに、

結果の報告だけにとどまらず、改善のための必要な取組や、第二次長野市環境基本計画後期計画を策定する中での目標値等につきましても、皆様のご意見をいただき、精査をいたします。

## 9 会議事項 第二次長野市環境基本計画後期計画について

### (1) 全体構成について

資料2-1-1から資料2-1-4について説明（事務局）

（井上部長）

委員の皆様にご審議をいただいている、第二次長野市環境基本計画後期計画の上位計画になる第五次長野市総合計画も現在策定中で、この総合計画と整合を取るために、前回の審議会において皆様にご承認をいただいた部分について、文言の修正等も合わせまして今回提案をさせていただきました。

（E委員）

第五次長野市総合計画の決定は、いつごろでしょうか。

（D委員）

基本的には今年中にまとめて、市民の皆様にも1月か2月に確認をしていただき、2月から3月までまとめ上げて、平成29年4月からということになります。

長野市は環境の面において、トップクラスの評価をいただいている部分がありますので、私としては環境面から情報発信が出来るような総合計画にしたいと考えています。

（井上部長）

環境基本計画のほうが、総合計画より少し早めに進行し、随時開催される総合計画の審議会に反映させて、総合計画と整合を図る、という流れで進めたいと考えています。

（A委員）

重点プロジェクトについて、構成については変更せず、総合計画のどの部分とリンクしているといった情報を追加するだけで、第五次長野市総合計画に引きずられずに本来の目的を果たせるのでは。

（井上部長）

総合計画と整合を取ることは、総合計画に引きずられるということではない、と認識していただけたらと思います。

（鈴木係長）

現行の重点プロジェクトのような掲出の方法ではなく、主要施策としての抽出という形を提案させていただいているのですが、第五次長野市総合計画に位置づけられる施策も、環境基本計画だけに出てくる施策や指標も、環境基本計画として必要と考えられるものを、主要施策として抽出をしていきたいという考えです。

（A委員）

つまり、削るということですか。

（鈴木係長）

現行の重点プロジェクトではあまりに多くの関連施策が掲出されていて、重点という視点がぼやけてしまっている印象を受けます。

この部分を改善するのに、施策一覧の中で指標目標に向って施策を推進するに当たって、どの施策を主要として推進するのかをわかりやすい形にしたい、ということです。

(A委員)

環境は、環境の視点での重要性をおさえておく必要があると思いますが。

(鈴木係長)

後ほど詳しく説明をいたしますが、資料2-3の白黒の施策一覧をご覧ください。

それぞれの指標に関連した施策が、縦に並んでいまして、それぞれの施策の左側に○や●、◎といった印をつけてありますが、●は第五次長野市総合計画における環境分野の指標関連施策、◎は本計画における指標・目標の関連施策でございます。

このように表記をすることで、一見してこのテーマの中での主要施策はこれだとわかるようにしたいということでございます。

(井上部長)

このような計画を立てる際、最終的に広く全てを網羅する傾向があります。

環境基本計画でもこれは避けられないとは思いますが、それでも平成29年度からの5年間で、特にこの部分を主要として推進したい施策を明確にしたいという狙いでございます。

(A委員)

現行の計画で、行政区で区分されていたものを、後期計画では土地利用区分で区分していくということについて、当初各地域が独立性を高めていこうということで、分けられたと思いますが、提案のような分け方をすると、收拾がつかなくなってしまうと思いますが。

(井上部長)

一つの地域で全てを網羅した環境政策を考えようとする、あいまいになってしまいますので、里や山あるいは川等、それぞれに対応した環境政策を考える必要があります。

(A委員)

ですので、地域の特性を明確に捉えて環境政策を講じれば、非常に現実的で実効性のあるものになるのではないのでしょうか。

(D委員)

今まで行政区分ごとという見方で改革を進めてきたことについては、評価できると思います。

ですが、例えば、住宅地と山間部で見ても、それぞれにニーズが異なります。

そのニーズに応える見方としては、今回の区分の仕方は非常に理にかなって、政策がうまく見えてくるのではないかという気がします。私としては、素晴らしいという評価をさせていただきたい。

(F委員)

5年間という期間での目標がある中で、重点にしたい部分をわかりやすく示されたほうが、取り組みやすいと思いますし、市民やそれぞれの自治体に対する運営の仕方を考える必要はあると思いますが、方向性としてはわかりやすいと思います。

(井上部長)

工夫をして、推進したいことがわかりやすい計画にしないといけない、と考えています。

(E委員)

土地利用区分での区分の仕方は、とても新しい考え方で、問題の整理にも役に立つと思います。

例えば、中山間地では少子高齢化が進み本当に人口が減っているわけですが、この場合の実行体制をどのようにして作っておくか、ということが一番大切なことだと思います。

このような部分を、是非練っていただきたい。

## (2) 施策の体系（案）について

資料 2-2 について説明（事務局）

### (C 委員)

基本目標⑤の施策テーマになっている、省エネルギーの推進につきまして、現在、事業所と家庭の省エネが一番問題であり、注目されています。

運輸業界や産業界においては、オイルショック以来省エネという部分について、盛んに取り組んできましたので実績としてエネルギー使用量は減少していますが、家庭においては増加の傾向にあって、省エネルギー庁では家庭の省エネを一番問題視しています。

この省エネということについて、長野市としては重点施策としての啓発推進を具体的にどのように考えているのか、教えていただきたい。

### (峯村室長)

長野市は、店舗やサービス業といった事業所と家庭とにおける省エネ、あるいは再生可能エネルギーの導入が、非常に重要だと考えています。

また、長野市が持っています、地球温暖化防止活動推進センターと連携をすることで、家庭の省エネ診断等の事業を通して普及啓発活動を進めています。

例えば、一般家庭向けに家庭用燃料電池、エネファームの導入に対する補助事業を始めさせていただいています。

これは、補助事業だけではなく、導入された方々から経済性や使用状況に関する情報をいただいて、エネファームのある家とない家、導入前と後で分析を行い、今後の普及啓発活動につなげていきたいと考えています。

## (3) 指標・目標値及び施策（案）について

資料 2-3 について説明（事務局）

### (B 委員)

環境と森林との関係性について、森林の定義を明確にする必要があると思います。

その上で、針葉樹と広葉樹とを、環境保全の中のどのように取り込んでいくのかということ、関係部署とご検討いただき、森林の定義とともに、報告をいただきたいと思います。

### (井上部長)

次回までに、報告をさせていただきます。

### (B 委員)

水環境について、下水や汚水に関しては環境基本計画の中に取り上げられていますが、上水道に関する部分については一切取り上げられていません。

環境基本計画の中には、水の循環の中にある上水道の部分、ないしはそれより上にあります森林の部分との関係性を関連付ける必要がある、と私は考えますし、上水道を利用したことを前提に、下水や汚水が出てきますので、上水道に関することが環境基本計画に取り上げられていないことに、疑問を持っています。

### (井上部長)

検討いたします。

10 その他

(委員)

意見なし

(事務局)

事務局からの連絡として、次回の環境審議会は平成 28 年 9 月を予定している。

11 閉 会